平成29年3月1日

平成２８年度　学校評価書

四万十市立中筋中学校
学校長　下谷　達也　　印

１．学校教育目標

自ら学び、共に歩み、未来を拓く生徒の育成

２．本校の現状

学力面においては、平成２７年度高知県学力定着状況調査で、３年生は、国語-3.3・社会-2.6・数学+11.2・理科+7.8・英語+4.2という結果であり、国語・社会に課題がある。２年生は、国語-14.6・社会-4.6・数学+1.3・理科+2.5・英語+2.6という結果であり、国語・社会に課題がある。

体力面においては、平成２７年度高知県体力・運動能力調査で、３年生は、上体起こしの平均得点5.80・立ち幅跳び4.60・ボール投げ4.60、２年生は、５０ｍ走2.75・立ち幅跳び2.25・ボール投げ3.75で、２・３年ともに「立ち幅跳び」「ボール投げ」に課題がある。

３．本年度の評価項目（____は幡多６市町村で共通）

〔１〕学力向上
①学力向上のための組織的な校内研修等の取組　②子どもにわかる授業づくり
③予習・復習の質と量を高める取組　④小中連携の推進

〔２〕生徒指導
①自尊感情が高くお互いを尊重する心の育成　②いじめの根絶
③読書活動の推進

〔３〕学校・家庭・地域の連携
①家庭・地域への積極的な情報発信　②開かれた学校づくり推進委員会の開催
③適切な学校評価と学校改善

（４）基本的生活習慣の確立と体力の向上
①生活調べの実施　②「早寝・早起き・朝ご飯」運動の実施　③体育授業の充実とリーダー育成
④スポーツテスト結果の分析

（５）防災・安全教育の推進
①避難訓練等の実施　②高知県安全教育プログラムの活用　③登下校中の事件・事故の未然防止
④安全な施設設備の維持管理・美化

４．自己評価

評価項目 大	評価項目 中	評価指標	取組状況・成果	評定		次年度の方策
（１）学力向上	①学力向上のための組織的な研修等の取組	○計画通りに校内研修に取り組む。長期休業中に計画を見直す。 ○ユニバーサルデザイン(UD)に基づく授業づくりの取り組み全ての項目で肯定的評価を50%以上にする。	○学期ごとに、そのときの課題に応じて研修計画を見直すことができた。 ○取り組みの肯定的評価は、25項目中14項目が100%であったが、３項目50%を超えることができなかった。	2	3	○学期ごとに校内研修計画を見直して取り組む。 ○ＵＤに基づく授業づくりに継続して取り組む。
	②子どもにわかる授業づくり	○研究仮説や授業スタンダードに則った授業を行い、11月に研究発表会を行う。学習状況アンケートを５月に実施し、評価指標を決定する。 ○研究授業を各教科年に２回実施し、外部講師を招聘して質を高める。	○研究発表会を開催できた。学習状況アンケートで、『友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広めたり、広げたりすることができている』の肯定的評価が80%以上の目標が100%であった。 ○西部教育事務所の指導主事を招聘して、各教科年２回以上研究授業を行うことができた。	4		○全へき研究発表会に向けて、授業改善を進める。 ○指導主事招聘による研究授業を実施する。
	③予習・復習の質と量を高める取組	○学年に応じた家庭学習時間を設定する。個や習熟度に応じた課題を与える。 ○全国学テ生徒質問紙「予習している」50%、「復習している」80%以上にする。 ○年度当初に「家庭学習の手引き」を見直し、日々の家庭学習で活用する。	○家庭学習時間を１年90分、２年120分、３年150分に設定した。達成率は１年95%、２年81%、３年60%であった。個や習熟度に応じた課題については改善の必要がある。 ○全国学テ生徒質問紙の『学校の宿題をしている』100%、『授業の予習をしている』16.7%、『授業の復習をしている』66.7%であった。予習・復習共に目標を超えることができなかった。 ○学習の手引きを見直し、生活日誌に記載した。活用する生徒が増えた。	2		○小中合同実施の生活調べを継続して行い、家庭学習時間を把握する。 ○「家庭学習の手引き」を見直す。年度初めのガイダンスで重点的に指導し、予習・授業・復習のサイクルをつくる。
	④小中連携の推進	○月に１回、小中連絡会を開催する。 ○運動会・一斉清掃・避難訓練・マラソン大会を合同で実施する。ＰＴＡ役員会を年３回開催する。 ○学期に１度、合同校内研修を行い、情報交換する。また、年に２回全員が授業交流をする。 ○小中交流学習会や合同運動会、読み聞かせ等で交流する。	○月１回の小中連絡会については、計画通り実施した。 ○学校行事等、合同で実施できた。学校アンケート『小・中は連携して取り組めている』の保護者の肯定的評価は69.2%で、教職員は100%であった。 ○毎学期、合同校内研修を実施でき、研究協議・情報交換ができた。教職員の授業交流は、３回実施できた。 ○小中交流学習会等、児童・生徒が交流することができた。『小・中は連携して取り組めている』の生徒の肯定的評価は100%であった。	4		○小中連絡会を定期的に実施する。地域のとの連携を協議する。 ○合同校内研修や教員の授業交流を継続して実施する。 ○児童・生徒の交流を引き続き実施する。生徒会が主体となって交流する。

（2）生徒指導	①自尊感情が高くお互いを尊重する心の育成	○道徳校内研修を年１回以上実施する。 ○道徳の授業公開を年１回以上実施する。 ○人権集中プランに基づいて実施する。人権に関する意識調査を基に人権に関する校内研修を行う。 ○人権参観日を１月に実施し、公開授業を行う。 ○生徒会が主体となる行事や活動を行う。	○道徳校内研修を１回行い、研修した。 ○道徳の公開授業を３回実施できた。 ○人権集中プランに基づいて実施できた。意識調査の結果について、校内研修で分析した。 ○人権参観日を行い、各学年、人権学習の授業を公開できた。 ○生徒会が主体となって、活動できた。『生徒会活動が充実している』の生徒の肯定的評価は100%であった。	4	4	○継続して、道徳の授業改善や全校道徳を実施し、自己有用感を高める。 ○「１０の人権課題」について各教科等で個別的・普遍的アプローチを整理して計画し、取り組む。 ○生徒がさらに達成感が味わえる清掃活動などのボランティア活動を企画し、実行する。
	②いじめの根絶	○年度当初に「いじめ防止基本方針」を確認する。校内研修・職員会で生徒理解について協議する。エンカウンターの授業を各学年年１回以上実施する。 ○校内支援委員会を、各学期１回以上開催する。 ○Ｑ－Ｕ・学校生活アンケートに関する校内研修を、それぞれ年２回以上実施する。	○年度当初に「いじめ防止基本方針」の確認をした。生徒理解についても協議できた。エンカウンターの授業は、２回実施できた。 ○校内支援委員会は、２学期に実施できなかった。『先生は話を聞いてくれる』の生徒の肯定的評価は92.3%であった。 ○各種アンケートを実施し、分析・協議できた。	3		○いじめ防止基本方針を来年度も確認し、エンカウンターの授業を行う。 ○校内支援委員会を持ち、巡回相談を実施する。 ○来年度も引き続きＱ－Ｕ、学校生活アンケートに関する校内研修を行い、生徒の状態把握、取り組みを全教職員の共通理解のもと進める。
	③読書活動の推進	○読書活動の推進に向けて、図書環境を充実させる。 ○図書（市民図書館も含む）を活用した授業を各教科で１回以上取り組むように支援する。 ○終学活のスピーチ活動において、学期に２回以上新聞を活用する。	①図書廃棄作業・レイアウト変更を行い、環境整備を実施した。図書委員による読書活動推進を行うことができた。 ②総合・国語・理科等で団体貸出図書や学校図書を活用した授業を年間14回行うことができた。 ③新聞を活用したスピーチはほぼ毎日できた。	4		○朝読書や読み聞かせを継続して取り組む。 ○図書館環境を整備する。 ○図書を活用した授業を行う。 ○新聞を活用したスピーチは、今後スピーチの内容の指導を継続した取り組みを行う。
（3）学校・家庭・地域の連携	①家庭・地域への積極的な情報発信	○学校だよりを40号以上発行する。 ○HPカウンター１日平均８以上HITする。 ○学校アンケート【１月保護者】で、『情報提供をできている』の肯定的評価を85%以上にする。	○学校だよりを40号以上発行できた。 ○HPカウンター１日平均7.6HITした。 ○学校アンケートの『情報提供をできている』の保護者の肯定的評価は84.6%であった。	3	3	○学校だよりやホームページを活用して、家庭・地域へ積極的に情報を発信する。
	②開かれた学校づくり推進委員会の開催	○「中筋子どもと共に育つ会」を３回開催する。学校アンケート【１月地域】で、『地域住民と協力して解決』の肯定的評価を90%以上にする。	○「中筋子どもと共に育つ会」を５回開催できた。学校アンケートの『地域住民と協力して解決』の地域の肯定的評価は86.6%であった。	3		○毎回、参加するメンバーが限られているなどの反省があり、今後、地域とのより良い連携を考えていく必要がある。
	③適切な学校評価と学校改善	○アンケートなど数値や客観的事実に基づいた自己評価を行う。 ○自己評価と学校関係者評価を踏まえて、次年度の評価指標等を改善する。	○アンケートなど数値や客観的事実に基づいた自己評価を行った。 ○自己評価と学校関係者評価を踏まえて、次年度の評価指標等を改善する。	3		○適切な学校評価を実施して、学校改善を行う。
（4）基本的生活習慣の確立と体力の向上	①生活調べの実施	○「生活規律が身に付いた」の肯定評価を80%以上にする。	○「生活規律が身に付いた」の肯定評価は54%であった。目標を上回ることができなかった。	2	3	○個人で目標を立てることによって意識させる。
	②「早寝・早起き・朝ご飯」運動の実施	○保体美化部の点検活動を中心に「早寝・早起き・朝ご飯」運動を行い、達成率を70%以上にする。	○「起床時間6時半まで」の生徒36%→65%、「就寝時間11時まで」の生徒40%→57%、「朝食を食べた」生徒96%→98%と向上した。	3		○「生活調べ」の集計結果を家庭に返し、家庭と連携して取り組む。
	③体育授業の充実とリーダー育成	○体育アンケートにおいて「体育の授業は好き」「体育は楽しい」の項目において肯定評価90%以上にする。 ○体育的行事に関するアンケート「充実感を感じる」の肯定評価を90%以上にする。	○「体育の授業は好き」の肯定的評価93%、「体育は楽しい」100%と目標を上回った。 ○「充実感を感じる」の肯定的評価は100%であった。	4		○個人の体力・技術力の向上について、体力テスト以外で把握できていないので、来年度は工夫し明確な指標を作成する。
	④部活動の活性化	○学校アンケートで、『部活動が充実した活動になっている』の肯定的評価を90%以上にする。	○「部活動が充実した活動になっている」の肯定的評価は92.3%と目標を上回った。	3		○部活動を中心にして、基礎体力を向上させる。
（5）防災・安全教育の推進	①避難訓練等の実施	○避難訓練を３回以上実施する。	○地震避難訓練は年間３回実施した。３学期に火災避難訓練を１回実施した。	3	3	○地震避難訓練は様々な状況を想定して実施する。
	②高知県安全教育プログラムの活用	○プログラムを活用した授業を各学年年間５時間以上行う。	○防災学習は各学年５回実施した。プログラムの活用については課題がある。	2		○「防災プログラム」に基づく計画的な実施を行えるよう年間授業計画を作成する。
	③登下校中の事件・事故の未然防止	○月１回、交通指導を行う。登下校中の事件・事故を０にする。	○月２回、保護者と学校で交通指導を実施した。登下校時の事件、事故は０件であった。	4		○月２回の交通指導を来年度も継続する。
	④安全な施設設備の維持管理・美化	○施設設備の定期的な点検を行う。 ○学校内外の美化を行う。	○施設設備の点検を定期的に行った。 ○保護者や地域の方の協力を得て、学校内外の美化を行うことができた。	3		○月に１回、施設設備の点検を実施する。

４段階評価（４　目標を十分に達成、　３　ほぼ目標を達成、　２　やや不十分、　１　改善を要する）

５．学校関係者評価

○少人数の学校の特性を活かした取り組みに期待したい。
　・生徒一人一人がクローズアップされる取り組み
　・個に応じた宿題
　・生徒と教員の個人面談
○生徒会が主体となる行事や子どもたちが自分たちでつくる行事を大切にする。
○卒業式の答辞で担任の先生に感謝する内容があった。そういう先生と生徒の関係を築いて欲しい。
○先生が子どもに寄り添うことが大事である。
○情報リテラシー（情報を自己の目的に適合するように使用できる能力）について保護者と共に取り組む。
○地域と連携・連絡を取り合えるように。
○１１月の全国へき地教育研究大会に向けて、地域も草刈り等応援できることをしたい。